

ごみゼロナビゲーションチーム 2013年度SEED PLAN 評価

長期目標

野外イベントの環境対策活動を通して、ワカモノの本気を引き出し、次世代を担う人材を育成します。ASJの使命を大切に、革新的で、対等な意識を持って公正な社会を作る人材を育成します。

「個人」と「社会のしくみ」という2つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

短期目標

目標	音楽フェスティバル・環境イベントを中心に、イベントをより環境負荷の低い参加型の場にしていきます。
達成度	90%
成果	2013年は20本以上のイベントで活動を実施し、またその内音楽イベント以外の分野で5本以上の活動を実施します。 ★20本、106,3000人の来場者
目標	新しいアクションの提案として、マイ食器マイボトルをイベントに持参する事を呼びかけるweb、冊子などを作り推進していきます。
達成度	80%
成果	★各実施内容に違いはありましたが、総計12本のイベントで「マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう！」を展開できました。初年度の今年、象印及びコールマンの企業協賛を得ることができ、マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう！の特設webサイト、フェス来場者向けパンフレットなどを作成できた。4月に行ったアラバキではごみゼロが実施するキャンペーンでの展開に止まったが、9月開催した京都音楽博覧会では主催者の全面的な協力により、主催者からの呼びかけも行われ、会場にブースも展開でき、多くの来場者がマイ食器を持参しました。
目標	ecoアクションキャンペーンブースでは10,000名以上の来場者にecoアクションを提案します。
達成度	65%
成果	★ap bank fesの減少などを受けて、6,541人の参加となりました。
目標	年間1,000名以上のボランティアとともに活動を実施します。活動するボランティアの内、5割以上を新規参加者に活動してもらうことで、ボランティア活動に参加するキッカケを提供します。
達成度	100%
成果	★1,143人のボランティアが参加。★新規参加者が58%になりました。
目標	【リユース活動】 ・2013年は8本以上のイベントにリユース食器を導入することを目指します。来場者に対してリサイクルを行うより、リユースの方が環境に良いことを呼びかけることで、「使い捨てのライフスタイル」を変えていきます。 ・イベント主催者が使い捨て容器をやめ、リユースできる食器を使い始めることで「社会のしくみ」を変えます。
達成度	75%
成果	★合計5本のリユースイベントに参加し、58,884枚の食器を削減 ★新規イベントでのリユース活動はできませんでしたが、夏開催されたアースガーデンにて初めて活動を実施できました。
目標	【LIVE ECO】 ライブハウス・クラブで300店舗以上、それ以外の分野も含めて400の場所にリユースカップを導入します。
達成度	80%
成果	全国380店舗/施設にリユースカップを導入しました。 営業活動やwebサイトの追加記事などを一切行わず依頼数が減少しています。来年度は対策を打つ予定です。
目標	【青年の人材育成】ワカモノが本気で活動できる場をごみゼロナビゲーション以外にも作るために、様々なNPOや青少年団体を訪問し、ディスカッションします。
達成度	85%
成果	★ETIC、ezorock、森の生活、NICE等を訪問し、代表とのディスカッションなどを実施し、8月にふくしまキッズ@北海道の活動をサポートし数名のコアスタッフを派遣、石狩で開催したRSRに3年ぶりに8名のコアスタッフが参加して、ezorockの活動に参加した。また、11月にはNPO法人森の生活と共催で「マイ食器手作りツアー in 下川の森」を下川町役場の協賛の元、東京から7人、札幌から2人の参加を得て実施できました。2014年度も実施予定です。

目標	【青年の人材育成2】他の団体とのコラボを進めるためにも、最低2団体と共同のワークショップを行います。具体的には、仙台ベースのボランティアインフォと組んで音楽ボランティアの横断的なつながりを作るワークショップを5月19日に開催予定です。
達成度	100%
成果	★仙台宮城エリアのイベントで活動するボランティアインフォ、とっておきの音楽祭、ジャズストリートフェス、アラバキロックフェスなど4つのイベントに参加するボランティアが一同に会し、自己紹介、課題の抽出と解決へのディスカッションなどを行いました。 ★11月には9名の参加者を迎え森の生活と共催で「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施。森を育み、森を頂くをテーマにごみゼロナビゲーションに参加するボランティア向けにアンケートを実施し、ワカモノのニーズ調査を行いました。活動に参加する前と活動後にそれぞれ行い意識の変化も調査しました。
目標	【青年の人材育成】青年のおかれている立場や現代の課題/問題や青年自身の意識調査を行います。……………
達成度	100%
成果	ごみゼロナビゲーションに参加するボランティア1000人にアンケートを実施し、どんな目的で参加するのか、なぜ複数回(リピート)参加するのか、ボランティアの動機や欲している情報/スキルなどの調査を実施できました。
目標	【独立に向けた準備】20年活動したA SEED JAPANを卒業し、独立する
達成度	100%
成果	発起人会を6月に立ち上げ、8月、11月と合計三回の会議を行い、独立に向けた準備を進め、名称、法人格の有無、規約、目的、事業などを議論し、NPO法人取得に向けて組織の整備を行い、2014年1月23日に正式にiPledge(アイプレッジ)を設立することができました。

年間活動

結果	4月：アースデイ東京、アラバキロックフェスにて活動、ボランティアアンケートを開始 5月：仙台にて東北ボランティアの集い開催 6月：第一回発起人会を実施(発起人6名が議論を開始)、 7月：フジロックフェスティバルにて新企画サンデーナイトコースを新設 8月：ezorock コーディネイトの元、コアスタッフ3名がFUKUSHIMA KIDSに参加 5年ぶりにライジングサンロックフェスティバルにコアスタッフが参加 第二回発起人会を実施(名称が決定する) 9月：京都音博にてマイ食器持参呼びかけを行いブース出展を実施、ソーラーBUDOKANにて活動 11月：NPO 森の生活と共催して「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施。第三回発起人会を実施 1月：23日に設立総会を開催し、正式にNPO iPledgeを設立 2月：14年間使ったASJ事務所から原宿オフィスに移転し、2/17より業務開始 3月：東京都公園協会との初コラボ活動「お花見クリーンキャンペーン」を実施
----	--

総括

A SEED JAPANからの独立を目標に活動した1年となりました。通常の活動を行いながら独立に向けた発起人会を継続して実施できたことで、何とか1月にiPledgeを設立することができました。設立に向けた準備、調査を同時並行で実施していたにもかかわらず、「マイ食器・マイボトルを持ってフェスに行こう!」という新企画の立ち上げ、来場者向け冊子、webサイトを作成できました。新たに象印、コールマンからの協賛獲得もできました。夏には姉妹団体でもあるezorockに協力してFUKUSHIMA KIDSに活動にスタッフを派遣し、コアスタッフの新たな可能性に挑戦できました。11月には「森から学び、森を頂く」をテーマに「マイ食器手作りツアーin 下川」を実施できたことは、他団体とのコラボ活動を推進していく大きなきっかけとなりました。

NPO iPledge について

Pledgeという言葉は、「決意する、誓う、固い約束」という意味です。若者が活動や社会に対して熱意を持った「決意」が生まれる場を作っていきたい。という意味を込めて、「iPledge」と命名しました。

会員数：104名(正会員24名 準会員80名)

理事：羽仁カンタ(代表)、濱中聡史(事務局長)、青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所)

草刈良允(社会人)、草野竹史(NPO法人 ezorock)、木村真理子(認定NPO法人カタリバ)

監事：星野智子(NPO職員)、濱野泰嘉(弁護士)

職員：羽仁カンタ、濱中聡史、江口晴彦、小高麗奈、草刈良允

設立：2014年1月23日 理事及び監事、会員数名が参加して設立総会を開催

オフィス：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-34-308 TEL：03-6804-3003/FAX：03-6804-3004

エコ貯金プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

目標	提言：公開アンケートを金融機関（メガバンク、主要地方銀行等）に送付し、フェアで公正な社会づくりに向けた金融機関側の取り組みを促進します。
達成度	70%
成果	11月に国内220の金融機関に対して、環境問題や社会問題への対応、金融機関の将来像まで幅広く問いかける公開アンケートを送付し、金融機関に対して社会性を持った行動をとるよう訴えました。合計21社の金融機関から回答が寄せられ、その回答と講評はウェブサイト等で公開予定です。
目標	啓発：環境イベントへのブース出展や、雑誌等への執筆等の方法を通じて、エコ貯金の考え方をより多くの市民に広めます。
達成度	100%
成果	<ul style="list-style-type: none">・4/20, 21に開催されたアースデイ東京2013（来場者数9万人）に中央労働金庫、東京CPB、オイコクレジットとともにブース出展をし、来場者にエコ貯金の考え方を紹介しました。・一般財団法人 ゆうちょ財団が発行する季刊誌「個人金融」2013年春号に近藤、土谷が「エコ貯金への取り組み」と題した記事を寄稿しました。・パタゴニア日本支社の環境助成金プログラム「ボイス・ユア・チョイス」の2013年度の助成先にも選ばれ、9/5から10/2の約1ヶ月間、パタゴニア渋谷ストアの店内でエコ貯金の事についての展示及び、パタゴニアのスタッフの方によつての説明が行われる機会が設けられました。さらにパタゴニア渋谷ストアの店頭で9/7と9/21の2回、ブースを出店し、パタゴニア渋谷ストアに来店された方に、エコ貯金プロジェクトメンバーが直接エコ貯金の事について説明しました。・10/26に開催された東京CPB設立10周年記念シンポジウムに小野塚が登壇し、エコ貯金及び、エコ貯金プロジェクトの活動について話しました。
目標	啓発：NPOバンクについての情報を市民に提供し、預金先の選択肢を広げます。
達成度	80%
成果	<ul style="list-style-type: none">・NPOバンク（未来バンク、東京CPB、女性・市民コミュニティバンク）へのヒアリング結果を元に、ウェブサイトにて市民に向けてNPOバンクの情報を公開しました。また、そのヒアリング結果の報告会と、お金の流れを身近に感じてもらうためのワークショップを開催しました。20名の方にご参加いただき、開催後の参加者アンケートでもほぼ全員が満足に感じられたようでした。

年間活動

結果	4月：アースデイ東京2013に中央労働金庫、東京CPB、オイコクレジットとともにブースを出展。 5月：季刊誌「個人金融」2013年春号に記事を寄稿 9月：パタゴニア渋谷ストアにて展示と店頭ブース出展 10月：東京CPB設立10周年記念フォーラムに小野塚が登壇 11月：国内金融機関に公開アンケートを送付 2月：NPOバンク報告会とワークショップを開催
----	--

総括

1年間を振り返ってみると、提言活動よりも普及・啓発活動の比率が多くなっています。提言活動と普及・啓発活動は、エコ貯金プロジェクトの活動の両輪だと考えるので、提言活動もより多く行えればと思っています。

今年度の活動の中には、過去にA SEED JAPANが活動してきた中でできた他団体との関係性から生まれた活動もありました（東京CPB、パタゴニアなど）。このような関係性を今後も大切にしながら活動をし、将来の活動をより活性化させるよう善処したいと考えます。

エコ貯金プロジェクト 2014年度 SEED PLAN

長期目標 (2030年までに達成するミッション)

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

- ・日本でのバンクワイザーの活動を推進することによって、お金の流れを使って社会をより良くしていく仕組みの構築を目指します。その第一歩として、バンクワイザーのことを日本中に周知し、バンクワイザーのウェブサイトに誘導します。ウェブサイト立ち上げに際してのイベントにおいて、100名以上の参加者を呼びます。1日のウェブサイトアクセス数を1000アクセス目指します。
- ・預貯金先を選ぶ際、社会性をもって選ぶことを身近に感じてもらい、エコ貯金を始めるきっかけを作ります。年に2回、お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催し、各20名以上の参加者を呼びます。
- ・ウェブサイト閲覧者やイベント参加者に対して、ツイッター・フェイスブック等のSNSを利用して、社会性を考慮に入れた結果、今預けている金融機関から他の金融機関にいくら預け替えました、という内容の発信をしてもらい、発信する人の数を400名以上目指します。
- ・日本でのバンクワイザーの評価対象となっている5行の金融機関のうち2行以上がCSRポリシー（社会的責任を果たすための企業方針）の見直しを検討し始めることを目指します。

年間計画

- ・アースデイ東京に青年団体・NPOバンクと共同出展し、エコ貯金を普及啓発します
- ・お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催します
- ・民間金融機関・NPOバンク等の環境金融に関する新たな動向を調査し、市民に向けて発信します
- ・青年層を中心とした市民を対象として企業・金融機関担当者、NGO 担当者を招き、持続可能な社会に向けた金融に関する普及啓発・意見交換を目的としたセミナーを開催します
- ・金融機関担当者・政策立案担当者・NGO・市民を対象としたBankwiserを絡めたダイアログを開催します。
- ・Bankwiserの内容を青年・市民に紹介するパンフレットを作成します
- ・環境・金融に関心のある青年・市民を対象とした、Bankwiser普及啓発セミナー開催します
- ・民間金融・Bankwiser・NPOバンク等の非営利金融機関の新たな動向を体系的にまとめた冊子を作成します
- ・Bankwiserを普及啓発するために、エコプロダクツに出展します

ケータイゴリラ 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

「地球上の多様な生物の生きる権利が等しく尊重される社会」の実現を目指し、「ケータイ」と「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けた仕組み作り・市民啓発活動を継続的に行います。

短期目標

目標	不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行います。
達成度	95%
成果	2013 年度で約 2,200 台の携帯電話の回収を行いました。これはケータイゴリラが活動を開始した 2008 年度に次ぐ回収台数で、要因としては約 1,200 台の法人回収を行ったからだと考えられます。法人からの一括回収は、回収台数を増やす上で重要な手段だと位置づけており、今後も増やしていきたいと思います。今年度は新たな携帯回収の取り組みとして 7 月から翌年 2 月まで毎月アースデーマーケットに出展しました。来年度は資源の有効利用という点で、今年度は約 10 台しか実施できなかったリユース回収も増やしていければと考えています。
目標	社会や環境に配慮した携帯電話を製造するよう、家電製品製造企業、携帯電話キャリア(※)に働きかけます。 ※携帯電話の通信サービスを提供している会社のこと。NTT DoCoMo、au、Softbank など。
達成度	10%
成果	エシカルケータイ実行委員会の活動に、ケータイゴリラのメンバーが関わることはできましたが、上記目標を実施することはできませんでした。同目標についてはエシカルケータイ実行委員会を中心にやっていければと考えています。
目標	ワークショップなど参加型の市民啓発活動を通じて持続可能な資源利用を求める市民の数を増やします。
達成度	95%
成果	アースデイ東京 2013、アースデーマーケット、エコプロダクツ 2013 などのイベントへの出展を通じて、市民への啓発活動を行いました。アースデーマーケットへの出展は 7 月から翌年 2 月まで毎月行い、より多くの市民に触れる機会を得られました。これらのイベント出展を通じて、問題の啓発は実施できましたが、その後に行うアクションを提供できなかったため、今後の課題としたいと思います。
目標	マウンテンゴリラの保護に関して、他団体と連携してより現地に貢献できるような体制を構築します。
達成度	65%
成果	アースデーマーケットなど他団体の運営するイベントに数多く出展し、協力して携帯電話の回収を行う関係を構築できました。しかし現地に貢献できる新たな体制を構築することはできなかったため、今後の課題としたいと思います。
目標	現地の NGO と連携して支援活動を行うために、彼らとの話し合いの場を持ちます。
達成度	90%
成果	現地 NGO であるボレポレ基金から Dr. Augustin K. Basabose / オーガスティン・バサボセ氏を招いて勉強会を開催し、両団体の活動の報告を行いました。コンゴ民主共和国やゴリラ保護の現状を知る機会になり、両団体の交流も図ることができました。今後は同団体と連携して具体的な支援活動を検討していければと考えています。

年間活動

結果

- 4月：アースデイ東京 2013 にブース出展、トークステージに参加
- 7月：アースデイマナーに登録、以後1月まで毎月アースデイマーケットに出展
- 11月：子どもとためす環境まつりに出展
- 11月：ポレポレ基金のバサボセ氏を招いて勉強会を開催
- 12月：エコプロダクツ 2013 に出展
- 3月：神奈川総合高校に講師派遣

総括

2013年度は2012年度に引き続き、使われなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、コンゴ民主共和国の現地市民の支援やゴリラの保護活動を支援するために寄付金額を増大させるという目標を立てて活動を行いました。法人回収5件と月1回のアースデイマーケットに加え、エコプロダクツ 2013 やアースデイ東京 2013 などでの回収を通じて2,200台の携帯電話をご寄付頂くことができました。

また、今後の寄付戦略に関して11月に行ったポレポレ基金との勉強会から発展し、2014年度にはコンゴ民主共和国に赴いた調査研究を行う運びとなり、現地のニーズをより具体的に掘り起こしていくための端緒となりました。

一方で、チームとしてのキャリアへのアクションは具体的な計画を立案するに至りませんでした。このことを機にメンバー間で、ケータイゴリラという寄付型事業が今後企業へ働きかける要素も含みどのような発展をすべきかといった議論が喚起されました。この点に関しては来年度も継続議論を行っていきます。

ケータイゴリラ 2014年度 SEED PLAN

長期目標

中央アフリカの紛争地域に暮らす人々が不条理に脅かされず、ゴリラとの共生を選べる社会を目指します。

短期目標

- ・携帯電話が引き起こす問題について知っている人を500人以上増やします。
- ・紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を明らかにし社会に発信します。
- ・年に数回のブース出展や法人回収を通じて、不要な携帯電話1500台をリサイクル、リユース回収します。
- ・事業で得た収益を現地NGOに20万円寄付し、ゴリラと人間の共生を促進する取り組みを支援します。

実行手段

- ・アースデイ東京 2014 やエコプロダクツ 2014 などのイベントでブース出展を行います。
- ・Twitter やブログ、facebook (ASJ アカウント) による情報発信を継続的にを行います。
- ・ワークショップや講師派遣などの市民啓発活動を5回以上行います。